



進化するオンラインセミナー



内海浩司
(株)ちばぎん総合研究所
経営コンサル第二部
担当部長

コロナ禍で拡大する オンラインセミナー

オンラインセミナーと言えば、コロナ禍前は専用設備を持った一部の企業のみがオンデマンド中心に配信していましたが、コロナ禍以降はZoom・Webex・Teams・Google MeetなどのWeb会議システムを利用した同時双方向のオンラインセミナーが開催されるようになりました。

忙しい現代人に 受け入れられる理由

私自身、数多くのオンラインセミナーに参加してきましたが、参加者のメリットとしては、何と言っても「時間」と「場所」の制約が大きく軽減されるということでしょう。会場までの移動時間や開始時間を考えて今まで参加できなかったセミナーにも参加できるようになりました。移動時間を節約できるというのは本当にありがたいことです。

2020年夏頃は、初めてオンラインセミナーを開催した主催者も多

く、切断等のトラブルなくオンラインセミナーを実施できるということが最重要課題で画質・音質は二の次でしたが、その後は画質(画面構成)・音質に工夫を凝らしたセミナーも出てきています。それぞれのセミナーを視聴してみると、特に長時間のセミナーで疲れ方が全く異なることがわかります。

急速に改善する 「画質」と「音質」

オンラインセミナーは集中力が持続しにくいと言われていますが、その原因の多くは画質(画面構成)と音質です。Web会議システムの画面共有で資料を共有すると、資料はよく見えますが講師の画像が小さくなってしまい講師の表情や動きが見えづらいということが集中力を持続できない一因となっています。

また、ハイブリッド(会場+オンライン)セミナーなどWebカメラで会場を撮影して配信する場合、講師の動きによる臨場感はあるのですが、プロジェクターで投影して

いる資料が見えづらくてストレスを感じてしまいます。会場の映像に投影資料を重ねるピクチャー・イン・ピクチャーという手法を使うと臨場感と資料の見やすさを両立することが可能となります。

音質も集中力に大きな影響を与えます。完全オンラインでパソコンに向かって話しているのであればパソコンのマイクでも大丈夫ですが、ハイブリッドセミナー等では会場のスピーカーの音を拾うのではなく、マイクからの音を直接映像とミックスして配信する必要があります。

メタバースへの展開

もっとも、映像・音声ともに最終的には配信ツールの品質が上限となり、現状では配信前の画質・音質をそのまま届けられているわけではありませんが、今後の品質向上によって、よりクリアな画像・音声を届けられることを期待しています。また、メタバースを活用した配信ツールの動向にも気を配っていきたくと思っています。

当社には豊富な実績があります

当社は1回目の緊急事態宣言中にセミナーを全て中止せざるを得なかったことを教訓に、オンライン配信に取り組み品質向上に努めてきましたが、最近ではお客様の社内研修や講演会の配信を依頼されることも増えてきました。オンライン配信についてご興味・お悩みのある方は、お気軽にご相談ください。

当社セミナー配信映像例

営業利益とは？

売上総利益 - 販売費及び一般管理費 = 営業利益

売上総利益	500
Ⅲ 販売費及び一般管理費	300
営業利益	200

「営業利益」
→本業から得られる利益

「販売費及び一般管理費(販管費)」
→企業活動を支える上で必要となるコスト